

第41回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)●(2015年10月11日～13日開催、シンガポール)

# 日本とASEAN: 次の50年に向けて

昨年10月11日～13日、AJBMシンガポール国内委員会との共催により、シンガポールにて第41回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)を開催した。2015年末にはASEAN経済共同体(AEC)が創設され、日本とASEANの関係も新たな段階に入ることが見込まれることから、全体テーマを「日本とASEAN: 次の50年に向けて」とした。また、前回同様、日本貿易振興機構(JETRO)が主催する「サービス産業国際シンポジウム」と連携する形で、プログラムを構成した。同会議には、本会関係者52人を含め、全体で約300人(日本を含め9カ国)が参加した。



## 開会式

開会式ではセシル・レオン第41回AJBM議長、志賀俊之AJBM共同議長／副代表幹事・アジア・中東委員会委員長(日産自動車取締役副会長)が開会挨拶を行った。レオン氏は、シンガポール独立50周年の年にAJBMを開催できたことに触れ、「シンガポール成功の陰には、日本企業との良好な関係があった。現在、ASEANと日本企業は強固で活気に満ちた関係を築いている。ASEAN企業は日本を海外投資先として見ているだけではなく、第三国への投資のパートナーとして見はじめています」と、これからの新しい関係の形について述べた。

志賀共同議長は、TPP協定の大幅合意による経済環境の変化について、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)など、



志賀俊之 副代表幹事/アジア・中東委員会委員長  
第41回AJBM共同議長(日産自動車取締役副会長)

## ■第41回日本・ASEAN経営者会議プログラム

2015年10月11日～13日(役職は開催当時)

- 一日目 ●AJBM推進委員会議(各国代表者会議)
- 二日目 ●開会式  
開会挨拶: Mr. Cecil Leong, Chairman & CEO, Mayer Brown Consulting (第41回AJBM議長)  
主催挨拶: Dr. Robert Yap, Chair, ASEAN Business Advisory Council  
共催挨拶: 志賀 俊之 副代表幹事・アジア・中東委員会 委員長(第41回AJBM共同議長)  
来賓挨拶: 日本国内閣総理大臣 祝辞(代読: 竹内 春久 駐シンガポール日本国特命全権大使)
- パネルセッションI  
「絶え間ない変化を続けるASEANでの成功に向けて: 地域オペレーションの将来像」  
基調講演: Ms. Alison Kennedy, Managing Director ASEAN, Accenture Strategy
- パネルセッションII 「日・ASEANのさらなる関係強化: 事業統合の視点から」  
基調講演: 西川 和見 JETROシンガポール 産業調査員/経済産業省 顧問
- パネルセッションIII 「主なASEAN加盟国におけるビジネス機会」
- 閉会式  
閉会挨拶: Mr. Cecil Leong(第41回AJBM議長)  
川名 浩一 アジア・中東委員会 委員長(第41回AJBM共同議長)  
第42回AJBMについて: 横尾 敬介 副代表幹事・専務理事
- 三日目 ●JETROサービス産業国際シンポジウム
- AJBM推進委員会議(各国代表者会議)
- シンガポール市内サービス業視察

他の自由貿易協定交渉の進捗にも大きな影響を与え、ASEANと日本の企業がビジネスの方法を変えていく必要があるとし、「ASEANと日本の将来の関係を考えたとき、今日関係をより強めていく必要がある。本会議では、ASEANと日本の成長に向けた、さらなる協働と協業の可能性を導き出せることを願っている」と同会議への期待を語った。

続いて、竹内春久駐シンガポール大使が内閣総理大臣の祝辞を代読し、「ASEANがより一層統合され、安定し、繁栄していくことは、地域全体のため

に極めて重要である」とのメッセージが紹介された。

## パネルセッションI

絶え間ない変化を続けるASEANでの成功に向けて: 地域のオペレーションの将来像

パネルセッションIでは五人のパネリストが登壇し、ASEAN市場の特徴を踏まえて、企業が同市場で勝ち抜くための方策について議論が行われた。モデレーターは、程近智幹事(アクセンチュア取締役会長)が務めた。

基調講演では、アリソン・ケネディ

アクセンチュアストラテジー社ASEAN代表が、ASEANの特徴として、①中国、インドに次ぐ世界第三位の人口で、さらに今後も増加すること、②収入の増加に伴い、中間所得層が拡大すること、③「都市化」によるインフラ整備や住宅の開発が見込まれることを挙げた。また、最近では日本だけでなく欧米諸国も、投資先を中国からASEANにシフトする動きが見られ、今後は日本企業と欧米企業の競合が増えるであろうと語った。



程 近智 幹事(アクセンチュア取締役会長)

## パネルセッションⅡ

### 日本・ASEANのさらなる関係強化:事業統合の視点から

パネルセッションⅡでは、五人のパネリストが欧州連合(EU)とASEANの市場統合の違いを比較しながら、ASEANの市場統合を加速させることやASEAN企業と日本企業がビジネス統合を進めることの必要性などについて議論を行った。

基調講演には、西川和見JETROシンガポール産業調査員／経済産業省顧問が登壇した。西川氏はASEANにおける事業統合の必要性について、「アジア

が健全な経済発展を持続するには、海外からの投資と、ASEANを代表するグローバル企業の存在が必要である。欧州企業は、市場の統合により米国企業に対抗できるだけの競争力を備えた。ASEANでは、ASEAN企業が日本企業などとのビジネス統合を進めていくことで市場を拡大させ、生産性の向上につなげたい」と述べた。

## パネルセッションⅢ

### 主なASEAN加盟国におけるビジネス機会

パネルセッションⅢでは、シンガポール、インドネシア、カンボジア、ミャンマーの各国代表が登壇し、今後の経済発展に向けた期待や課題について、活発な意見交換を行った。

インドネシアを代表して、西崎龍司三井住友銀行執行役員新興国戦略本部副本部長が登壇した。西崎氏は、同行のASEANでのビジネス戦略について「2014年から新たにフルバンキングサービスをアジアで行う戦略を掲げ、まずはインドネシアとベトナムでこれまでの大企業向けのサービスに加えて、中小企業、個人へのサービスも提供していく」と語った。

## 閉会式

閉会式では、レオン氏に続き、川名浩一AJBM共同議長／アジア・中東委員会委員長(日揮取締役社長)が登壇し、

「ASEANは、加盟国の多様性を理解し、その上で経済統合に向けた調和を図ることが大切である。パネルセッションでは、ASEAN各国についての理解を深め、日・ASEAN関係を強化する機会を得ることができた。AJBMをより発展させることにより、次の50年も、それ以降も日本とASEANが共に成長していくことを願う」と挨拶した。



川名浩一アジア・中東委員会委員長  
第41回AJBM共同議長(日揮取締役社長)

次回の第42回AJBMについて、横尾敬介副代表幹事・専務理事より、「次回は日本での開催となる。より活発な意見交換、深い交流ができるよう、第41回AJBMの成果を踏まえて臨みたい」と日本開催の抱負を述べた。



横尾敬介 副代表幹事・専務理事

## JETRO サービス産業国際シンポジウム

最終日には、JETRO主催のサービス産業国際シンポジウムが開催された。JETROは、日本のサービス産業分野の競争力や優位性を国際的に発信し、日本が同分野においてイニシアチブを発揮することを目的に、定期的にサービス産業国際シンポジウムを開催している。今回は、志賀俊之副代表幹事による来賓挨拶が行われた後、日本とASEANの有力なサービス企業のトップを招き、講演やパネルディスカッションが行われた。



※詳しくは、<http://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2015/151120a.html>